

中村俊定文庫  
文庫 18  
707



ヤニニニニニニニニ

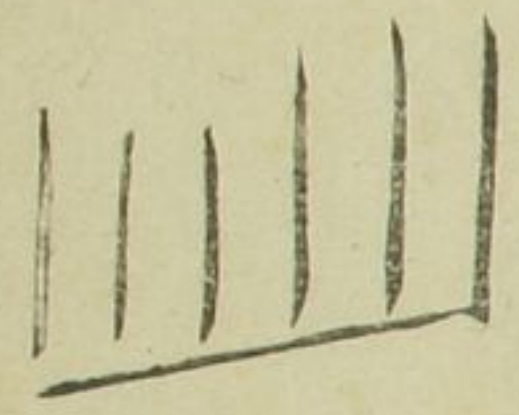


梅花のついでに  
萬國の春の  
詩と賦と歌と  
詠と  
平生を以て  
此の世に  
待す

寛政 戊午 春

信々草





雲流し  
 柿の毛川く  
 雲乃く  
 五律



山崎  
 雲乃

澤  
 甲丁  
 雲の湯



おしらしを  
砕 おひなり  
雛の湯

里雨



声かき

妻戸の園

猫乃恋

丁花









花柳の  
 花柳の  
 小柳の  
 小柳の



花柳の  
 花柳の  
 花柳の  
 花柳の



花柳の

苗代や

むし路子

後の

糸車

船々



薰乃あしはまき梅の花

乃風

折ぬき色し風ふき春紅

羽靡しそよ風の志をなせり 雲花

なをあそかき孫此のつら 船々

石此畑のれをぬくまの月 丁花

行言かち小舟摺此こ 船々



柏多し麻しちるふちあれのうち  
 以沙  
 ら執と大集おま家つおきぬの曲  
 里雨  
 今しなを恨と涙おぼく  
 李條  
 叫くあお夕日ちりり  
 池月  
 都々々旅の海なる  
 遠城の花  
 五律  
 川きく世の流く水き見  
 布川

延喜式を略



山寺や

海苔 喰はらうと

花の了海

らあを

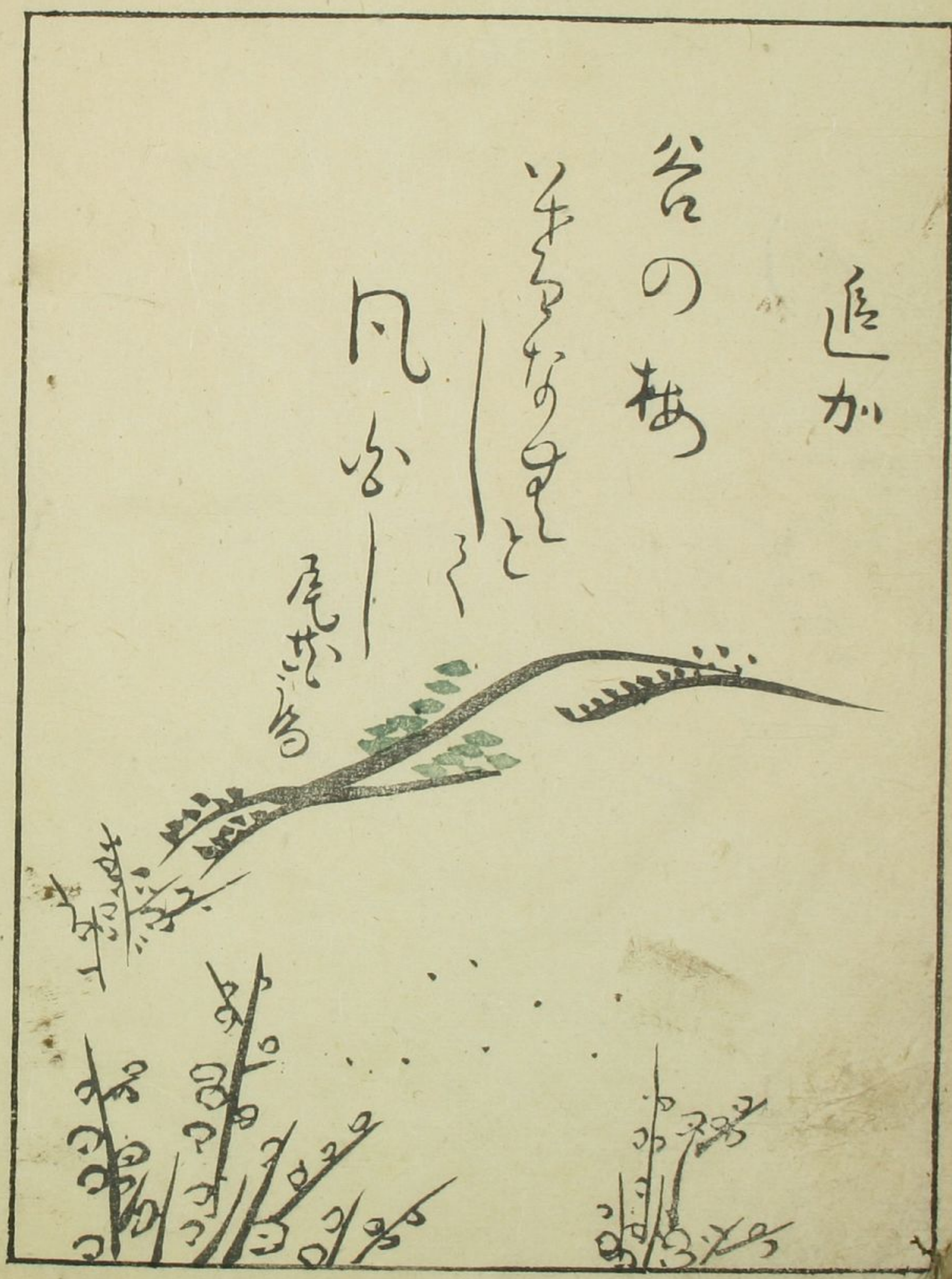
追か

谷の梅

つちのうら

凡か

尾花



7  
1  
7  
7

